

ちから スポーツの力 ～する・みる・ささえる～

「ささえる」スポーツを
イメージしてみましょう！

皆さんはスポーツをどのように楽しんでいますか。実際にプレーしたり、テレビでオリンピックを観て応援したりと、楽しみ方はたくさんあります。こういった「する」「みる」スポーツはどういったものかイメージしやすく、すぐにいくつか思いつく



のではないのでしょうか。
では「ささえる」スポーツのイメージはどうでしょうか。すぐにイメージできるのは「スポーツボランティア」という人が多いと思います。いろいろな大会にスタッフとして参加することで、選手と

ともに大会を盛り上げ大会運営のささえとなっています。

また、「指導者」の皆さんもそうですね。スポーツ少年団をはじめ、スポーツ教室やクラブ活動などで技術の向上などスポーツ活動をより良いものにするためささえ、定期的に講習や研修を受け指導の質の向上に努めています。

そして「スポーツ推進委員」の皆さんも地域のスポーツ振興をささえています。地域行事などでレクリエーションスポーツの指導や、スポーツフェスティバルの役員などで活躍しています。

こうして考えると「ささえる」スポーツもいろいろとありますね。ささえる側でしか味わえない楽しみや喜びもあるかもしれません。縁の下の力持ちだから体験できる楽しみを見つけてみてはいかがでしょうか。

三重県スポーツ協会
みえのスポーツ応援隊

伊賀市スポーツ
推進委員

【問い合わせ】 スポーツ振興課
☎ 22-9635 FAX 22-9694
✉ sports@city.iga.lg.jp



明日に向かって ～差別をなくしていくために～

被災地の避難所に学ぶ 一介護高齢福祉課一

元日に発生した能登半島地震の記憶はまだ新しいところだと思います。私は、5月1日から7日まで被災地支援のため輪島市に赴き、避難所の運営支援に携わりました。現地では、地域のいたるところで損壊した家屋がそのままの状態になっており、地震の被害の大きさを実感させられました。また、すでに震災から4カ月が経過していましたが、避難所にはまだ多くの方が避難されており、避難生活が長期化している現実を目の当たりにしました。高齢の避難者が多く、なかには認知症の人や心身に障がいのある人も避難されていました。

このように避難所には多様な背景や事情を持つ人が避難します。すべての人が安全かつ安心して避難生活を送るためには、性別、年齢、病気や障がいの有無などそれぞれの人の背景や事情に配慮した避難所運営が重要となります。具体的な取り組みとして、

避難所の設計や配置においてバリアフリーやプライバシーを確保するよう努めること、食事や宗教的なことがらについての配慮などが例に挙げられます。

また、配慮を必要とする人の声を直接避難所運営に反映する仕組みを作ることも重要になります。私が派遣された避難所では、毎朝各地区の代表者と行政の支援職員がミーティングを行うなどして、避難所での課題や改善点を収集し、実際の運営に反映させる取り組みが行われていました。

今回の経験で、災害が起こる前に、避難所には多様な背景や事情を持つ人が避難されることを想定し準備することが必要だと痛感しました。また、一人ひとりが被災者になる可能性があることを自覚し、日頃からの備えを怠らないようにしたいと思います。

人権について考えるコラムです。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ

伊賀の歴史余話 人々を見守る地蔵

37



▲みちゆき地蔵

伊賀地域には石仏が多く存在します。道端に安置されるものや、小さなお堂などが建てられているものなど数多くあります。石仏の種別は地藏菩薩が主になっており、地藏信仰が地域の人々に強く根付いている様子が見て取れます。
地藏石仏は、室町時代から造られる数が増えました。個人が寺に寄進することも多く、供養のためや祈願・願解きのために造られました。また、街道沿いに安置されていることも多く、国や村の入口や境界を守るために祀られていました。



▲みちゆき地蔵拓本
(市田進一さん採拓)

写真は横山の東福寺跡近くにある「みちゆき地蔵」です。南北朝時代頃に造られたとみられる比較的古い石仏で、舟形光背に半肉彫りの地藏菩薩立像が彫り刻まれています。花崗岩でできており、高さは145センチほどとしっかりとした大きさです。光背部分には複弁蓮華六弁があり、台座の部分は二段になっています。錫杖を持つ右手の形が少し変わっているのが特徴です。
みちゆき地蔵は、旧道沿いにお堂が建てられ祀られています。横山は河合川上流域に位置する山間の集落で、滋賀県甲賀市の信楽町や甲南町へ至る道がある要衝の地です。奈良時代から平安時代頃は東大寺の荘園の一部となり、中世には城館が築かれ、また窯跡があるなど、人の往来が盛んだった地です。
全国的に見ても峠道や要衝の地に安置されている地蔵は「みちゆき」や「みちびき」などの名で呼ばれることも多く、行き交う人々の無事を見守ってきたのではないのでしょうか。

文化財課歴史資料係
☎ FAX 41・2271

IGAMONO
伊賀

IGAMONO
セレクション

No.54



ひょうろうがん 忍者の携帯食「兵糧丸」

伊賀忍者三上忍の一人、藤林長門守が、駿河国（静岡県）の今川義元に仕えていたとき、山本勘助に、伊賀流忍術を伝授しました。この「兵糧丸」は、その勘助の書いた忍術秘伝『老談集』の中に書かれた「兵糧丸」を、分量、材料を当時のままに、食味を現代風にアレンジし再現したものです。

主原料となる餅米、うるち米などは伊賀産米を使用しています。氷砂糖を多く含むため、血糖値を上げられるとともに、生薬配合により、滋養強壮や鎮静効果、抗ストレス作用、健

胃作用があります。

書伝実物の忍者携帯食であり、現代のサプリメントのようなものです。



忍法帖料理 藤一水
(有限会社 魚定)
取締役
藤林 孝行さん

日本料理店「忍法帖料理 藤一水」は伊賀市北部の山間部に店を構えています。忍者の末裔であり、江戸時代に書かれた奥義書『萬川集海』の著者が先祖であるため、忍者にこだわり、忍法帖料理を作りました。忍者は、今で言うバランスのとれたヘルシーな食事をしていたといえます。忍者をテーマに昔の忍者が食した素材を現代風に

アレンジし、かつ伊賀の新鮮な素材、旬の食材を最もおいしく召し上がっていただける会席料理を提供しています。また藤一水ではお食事を召し上がっていただいた後のお楽しみとして、忍者の知恵を再現したさまざまなからくりを店内に施しています。ぜひ一度お立ち寄りください。



【問い合わせ】 有限会社 魚定 ☎ 43-1089

■伊賀ブランド推進協議会事務局（商工労働課） ☎ 22-9669 FAX 22-9695